

フレッシュマン・オカザキのインド通信

大雨の後は…

A Happy New Year! 明けましておめでとうございます!

昨年はインドメルマガをご愛読頂き、誠に有難う御座いました。本年も皆様により良い情報をどこよりも早く、そして面白おかしいネタも箸休め程度にご提供していきたいと思えます！ご意見・ご感想もお待ちしていますので是非宜しくお願い致します！

それでは2018年第一号 はりきってまいりましょう!

昨年11月のメルマガで、インド南部全域での暴雨についてお伝えしました。モンスーン(季節風)の影響で毎年雨季はあるのですが、今回の雨は例年にも増して激しく、当社の協力加工工場があるタミルナドゥ州チェンナイでも10月末に大規模な洪水が起きました。100年に1度とも言われたこの大洪水では、道路が川となり木々がなぎ倒され、**最終的に300人近い死亡者が出ました。**その後、断続的に1ヵ月半以上降り続いた雨はようやく収束に向かい、現在では平穏な姿を取り戻しています。

11月当時の新聞記事がこちらです。↓↓↓



何と恐ろしい光景でしょうか…。

各丁場への影響も深刻です。1ヵ月半という期間の間、これほどの豪雨が連日続くとなると丁場は採掘が出来ず、もし1,2日雨が止んだとしても今度は堀口に溜まった水をポンプで吸い上げる作業に追われ、結果的に長期間作業が出来なくなってしまいます。

↓はアーバングレーのとある堀口の写真です。



元々湖だったのではないかと思います。堀口が雨で見えません。



↑別堀口の写真です。ポンプで水を吸い上げています。この湖ほどもある水の量をすべて吸い上げるとなると、何日かかるのか… 想像もしたくありません…

また、クンナム丁場の地域もこの雨の影響を大きく受けておりました。特にクンナム-V 丁場は比較的低い(深い)位置にある為、他の堀口から吸い出された水が流れ込み、かなり停滞してしまいました。製品生産に影響が出ないことを祈るばかりです。

そんな雨も12月初旬には全域で止み始め、12月25日現在、小さい丁場を中心にようやく採掘を開始できる丁場が少しずつ増えてきました。

アーバングレー、クンナム共にお待たせしているお客様には大変申し訳ありませんが、採掘・成形が上手くいけばあと少しですので、ご寛恕の程宜しくお願い致します。

「インドで広がる、反クリスマス」

皆さんご存知の通り、インドはヒンドゥー教徒の割合が多い国ですが、実は他の宗教も多数存在する多宗教国家です。具体的には…

- ヒンドゥー教：約 73%
- イスラム教：約 12%
- キリスト教：約 2%
- シーク教：約 2%
- その他：約 17%(仏教、ジャイナ教、ゾロアスター教等)

この様な割合となっています。人口は 11 億人以上ですので、2 位のイスラム教徒でも日本の人口を超える人々がおり、各地域にはそれぞれの寺院、モスク、教会があり共存共栄しています。

また、インドの国旗にも表現されている通り、**サフラン色はヒンドゥー教(勇気・犠牲)**、**緑色はイスラム教(公平・騎士道)**、**白色は両二大宗教の融和**を表しています。様々な宗教・文化が織り交ざりながらインドという国を形成しており、なんと素晴らしい国なのではないでしょうか。



左：アクシャルダム寺院(ヒンドゥー教、ニューデリー)

中：ジャーマー・マストジ(イスラム教、オールドデリー)

右：セント・ポール大聖堂(キリスト教、コルカタ)



↑キリスト教団のイベントに参加するモディ首相

でも、実情はそんな生易しいものではありませんでした。

特にヒन्दゥー教とイスラム教は互いに対する敵対意識がかなり強く、ヒन्दゥー至上主義者が扇動した暴動事件やイスラム教過激派によるテロ事件がしばしば発生しているのが現状です。そんな中、驚くべき事件が起きたようです…。

中部マディヤプラデシュ州で、クリスマスの聖歌を歌っていた神父や神学生ら 32 人が地元警察によって拘束されました。さらに、警察署に勾留されている神父らの様子を見に行った 8 人も逮捕されたとの事です。誤解が解かれ翌日までに全員釈放されましたが、警察署の外に置いてあった神父の乗用車が放火されていたようです。何と恐ろしい事件でしょうか…。

神父らが、「地元のヒन्दゥー教徒へ改宗を迫っている」という告発があった事からこのような事件に発展したそうです。告発者はモディ首相率いる

国政与党インド人民党(BJP)と関係が深いヒンズー至上主義団体「バジュラン・ダル」の一員だったようです。本当に改宗を迫っていたのかにわかに信じ難いですね… というか、改宗を迫ったら逮捕されるという点が一番の驚き
ですが。。。

ヒンドゥー至上主義の高まりを受けて、インド各地では少数派宗教への弾圧が相次いでおり、牛を神聖視するヒンズー教徒が牛肉を販売したイスラム教徒を襲撃する事件も相次いでいるそうです。

統一を願ったインドの父、ガンディーの思いは何処へ行ってしまったのでしょうか…

こういった異教徒間の摩擦もインドならではの一面があるなあと感じる今日この頃ですが… でも、なんとも防ぎようはありませんが、

個人的には、空港テロだけは勘弁してほしいものです。。。

それでは今月はこの辺で失礼いたします。

最後まで読んで頂き、有難う御座いました！

2018/01/01 オカザキ